



認知症介護で不安を感じている方

この町はご高齢の方も 家族に気兼ねしないで 外出・散歩ができます

現在、高齢になっても、すみなれた自宅で安心して生活をおくる、在宅介護がすすめられています。

在宅介護されているご家族は、高齢者の外出先が不明になる心配から、外出を控えるようにされる場合も多いのではないのでしょうか。

共助の会ではこんなご家族の心配をかけないで、自由に外出ができるよう、

ご家族が依頼された時にいつでも

御高齢者の居場所を探してお知らせする、ボランティア活動をしています。費用負担は一切ありませんが、ご高齢の方に町から貸与された小さなGPS端末を携行して頂くだけです。

この会の活動に洞爺湖町からご理解とご支援を頂いております。**GPS端末貸与希望者は別紙申込用紙(町役場窓口にあります)を送付下さい。**

どんなものか知りたい、試してみたい、会の活動に興味がある、といった方は気軽にご連絡下さい。

毎月 第3木曜日は
午前10:00-11:30
洞爺町 曙会館 でお待ちしています。



問い合わせ先 : 「とうや共助の町づくりネットワーク」 事務所



電話 0142-87-2039 (三品) t.kyoujyo@gmail.com



とうや共助の町づくりネットワーク

「試用機器無償貸し出し」と「会への参加よびかけ」

この会は、とうや湖町を住みやすくするための「共助の在り方の追及」、
「地区在住高齢者と遠隔地ご家族を含めた共助支援体制の構築」、
この地区に住み続けるための「知識・知恵を共に学ぶ」等に取り組み、
町との協力により高齢者を見守り、支援することを目的としています。

当面のボランティア活動

安心して住み続けられる町づくりのために、

- (1) 地域と遠隔地家族の連携見守り体制の樹立
- (2) 独居や高齢世帯の緊急時にご近所へ支援依頼を発信する
SOS支援体制樹立
- (3) 介護の心理負担を軽減するため、未帰宅老人(徘徊)の日常随時居場所検索
を行うための近隣支援体制の樹立
- (4) 健康管理のための健康データの会員相互交換による健康推進意欲向上と将来の
遠隔診療体制への模索



等の活動を通して「ICT活用による地域連携」を地域住民の力で進めるモデル事業を立案し、
実行し、効果を検証して定着させる(PDCA)ことを目的とした活動を行います。

ボランティアとして“見守られる”ことの意義

地域連携の目的を達成するために使う貸与機器(GPS端末)の一部は、町の協力により未帰宅老人
対応や地域共助の先駆事業として希望者に貸与いたします。貸与機器を借り受けて、先駆事業
の有効性を確認して意義を近隣の方に話すこともボランティア活動の一つです。

ボランティアのやる仕事

- * GPSやスマホ・PCといったICTを駆使し、住民の参加による色々な面からの連携体制を構築する
会にご参加ください。
- * スマホなんて関係ないという方も、見守ったり、GPS端末を利用して見守られ体験をしたり、実際に
見守られたりする、地域連携の輪では大切な役割を果たして頂ける場がたくさんありますので、
ぜひご参加ください。
- * スマホやパソコンを日常お使いの方は、パーソナルユースだけでなく、その技能を地域のためにも
お役立て頂ければと思います。

現在実施している地域連携活動と会議開催

当面の活動内容を裏に示しますのでご覧いただき、ご賛同頂けるようでしたら、
毎月第3木曜日の午前10:00ー洞爺町・曙会館で開催の例会に参加頂くか、
下記にご連絡下さい。



とうや共助の町づくりネットワーク 代表(三品)

連絡先 0142-87-2039 t.kyoujyo@gmail.com